

22 余川

23 立尾川



22)余川  
1  
h=1m  
少し濁った水で石に泥が付着する。  
7/19の出水でアユが減った。



22)余川  
2  
崩壊跡  
7/19災害跡



22)余川  
3  
h=1m



22)余川  
4  
h=1m



22)余川  
5  
風倒木の崩壊地



22)余川  
6  
h=1.5m  
土砂の流出が多く石に泥が付着する。7/19災害でアユが減った

余川  
立尾川



22)余川  
7  
h=1.5m  
魚道あり。



22)余川  
8  
h=1.5m  
ここには重さ約4Kg  
の大山椒魚が住んで  
いるとのこと。



22)余川  
9  
h=1m  
岩・礫川である。



22)余川  
10  
h=1m。



22)余川  
11  
河川状況。  
自然の流れである。



22)余川  
12  
崩壊地。

22

余川



22)余川  
13  
河川改修で固められ  
ている。



22)余川  
14  
h = 1 m。  
礫・土砂の流出が多  
い。



22)余川  
15  
崩壊地。  
風倒木地で土砂崩壊  
が生じている。

22)余川  
16  
崩壊地。



22)余川  
17  
同上。  
崩壊は全て風倒木地  
に生じている。



22)余川  
18  
河川状況。  
石には泥が付着して  
いる。





22)余川  
19  
大規模崩壊地。  
多量の倒木と土砂が  
流出している。



22)余川  
20  
崩壊地。  
土砂はほとんど崩れ  
落ちている。



22)余川  
21  
 $h = 2 \text{ m}$ 。  
水力タービンを回し  
て製材ノコを動かし  
ている。10数年前か  
ら砂の流出が多くな  
り、濁り易くなった。  
大山椒魚の親子が住  
んでいる。



22)余川  
22  
崩壊地。



22)余川  
23  
 $h = 1 \text{ m}$ 。  
河川状況。  
護岸整備。



23)余川  
24  
河川状況。  
礫河川である。

22

河川



23)余川  
25  
h = 1.5m。



23)余川  
26  
h = 7m。



23)余川  
27  
大空山。  
のとり高原。  
植林地が広がる。  
風倒木は見られない。



23)立尾川  
28  
崩壊地。



23)立尾川  
29  
h = 1m。



23)立尾川  
30  
h = 1m。  
石積で緩勾配として  
いる。

22  
23



23)立尾川  
31  
川床状況。  
礫・岩が分布し、清  
水が流れるが、土砂  
の流出は多い。  
ハヤ・ウグイ生息。



23)立尾川  
32  
h = 10m。  
花崗岩マサ分布。



23)余川  
33  
h = 1.5m。  
魚に優しい。



23)余川  
34  
h = 1m。  
ハヤ生息。アメゴは  
放流時のみで、常時  
はほとんど居ないと  
のこと。



23)余川  
35  
川床状況。  
花崗岩礫主体の川床  
である。魚は少なく  
なったとのこと。

22

23

2018年7月11日撮影

© 2018

写真家 山本 隆夫

KOKUYO  
7-270N

23) 余川  
36  
崩壊地。



23) 余川  
37  
h = 1.5m。  
魚の遡上は難。



23) 余川  
38  
川床状況。  
礫川である。  
Gr, Ry礫主体。



23) 余川  
39  
川床状況。  
砂礫の流出が多い。



## 間伐モデル林

間伐をしないと、立木の成長に支障を与えるだけでなく、土砂の流出、風雪害などの災害を受けやすくなります。

これを防ぐには、間伐を実施し、水源かん養機能など公益的機能を回復させることが重要であります。

そして、「健全な森林」として次世代に引き継ぎましょう。

間伐の目的 立木の成長促進、水源のかん養、山地災害の防止

経 歴 樹種 ヒノキ・林齢 32年・面積 5.00

枝打ち 2回・間伐 3回

間伐前 1630本/ha

間伐後 1100本/ha(間伐率 32.5%)

富村： 富村森林組合

23) 余川  
40

23) 余川  
41  
間伐林であるが、まだかなり密な状態と思われる。

